

2023 年度 教育課程

専門分野 (成人)

# 成人看護学

## 構築の考え方

成人看護学は、成人期のあらゆる健康レベルにある対象に対して、看護実践をおこなうための基礎的能力を養う領域として位置づける。

成人期は、青年期から壮年期・向老期にあたり、人生の中で最も長い期間である。

この時期の対象は、身体的には成長・成熟・衰退という変化が起こる中で、アイデンティティを確立し、職業の選択を行う・結婚して家庭を築く等、自立かつ自律した社会生活を営み、社会的役割や責任を負いながら生活を送るとされる。そのため、心身にかかる負担が多く、置かれている環境や生活習慣から健康問題も生じやすい時期である。

現代の経済的・環境的变化はめまぐるしく、それらの影響を受けて対象の健康問題も複雑性や多様性を増している。このため、対象を包括的に理解し、その健康生活を多角的にとらえる視点を持つ必要がある。そして、対象の生活と健康に関する基本的知識を理解基盤とし、多様な健康状態や健康問題を理解し、それらに対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶ必要がある。

看護においては、対象を保健医療という広い視野の中で健康の保持・増進という視点においてとらえ、疾患をもった対象に対して、彼らが最も必要としている援助を行うといった基本に立ち考えていくことが重要である。

これらのことから、個々人の生活と健康に焦点を合わせ、その人らしくあることができるよう看護の基本となる考え方や方法を学び、大人に特徴的に、また共通してみられる健康状態や健康問題に対する具体的な援助方法を学習していく。

また、成人期にある学生が、家族や社会の一員としての自己を理解し、発達課題を明確にした上で課題達成ができるよう学習を支援する。

以上のことから、成人看護学の授業科目構造は、成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴ 6単位（135時間）並びに成人看護学実習2単位（90単位）とし、合計単位数は8単位（225時間）とする。

成人看護学概論では、成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴、成人の健康の保持・増進に対する援助について理解する。

成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴでは、健康障害を持つ成人とその家族を理解するとともに、健康障害からの回復の支援や、健康障害を持ちつつ生活を営む対象への看護について理解する。

健康障害を持つ成人を理解し、健康障害の成り立ちや回復するための治療を踏まえつつ看護を学習するために、解剖生理学・疾病治療論と同じ科目構成とする。

成人看護学実習では、生命の危機的状況にある対象を理解し、生命の維持と健康の回復に向けた看護を理解する。

# 成人看護学

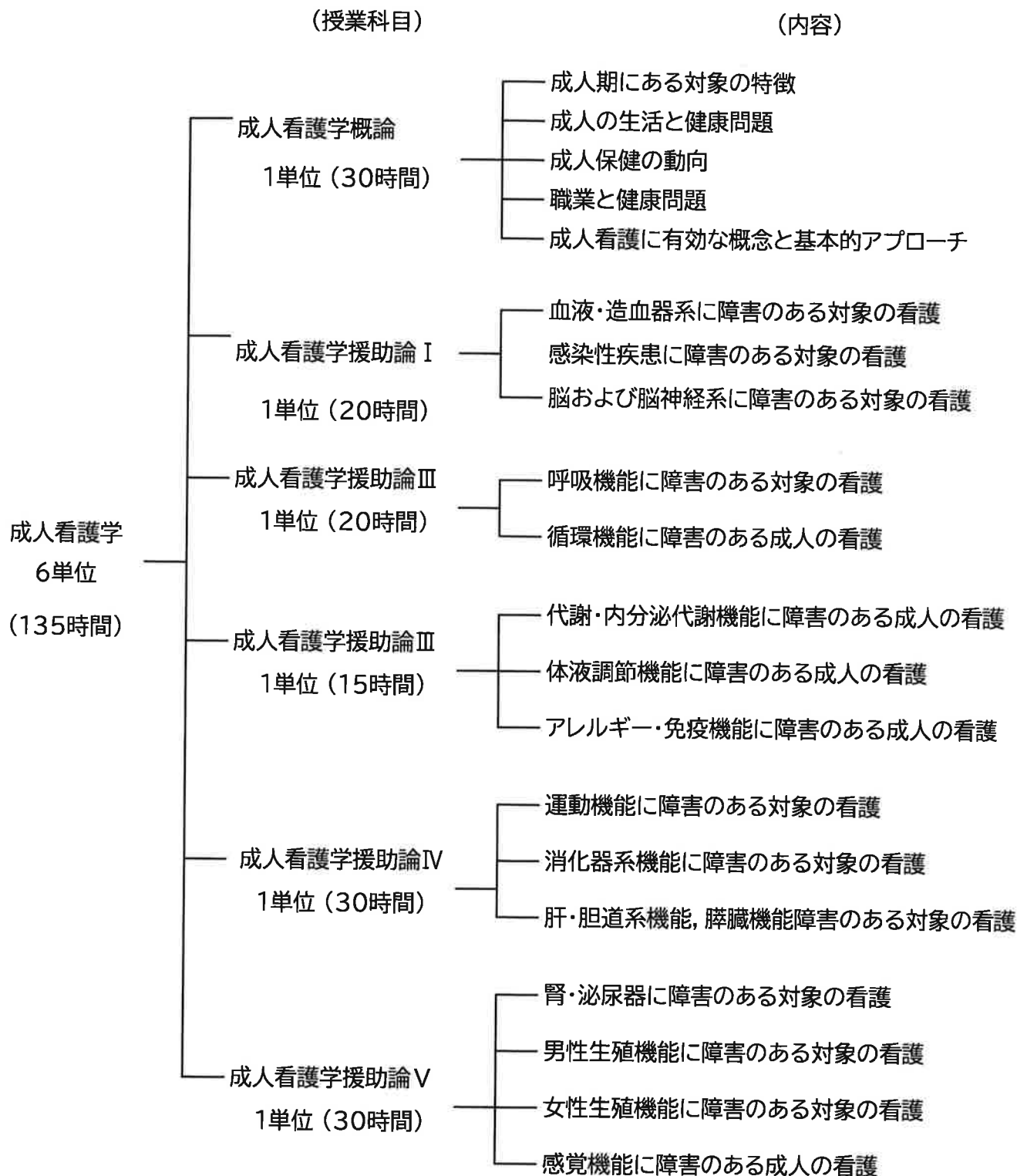
## 目 的

成人期にある対象の特徴を理解し、健康の保持・増進および健康障害に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

## 目 標

- 1 成人期にある対象の特徴と健康特性を理解する。
- 2 成人期にある対象の健康の保持・増進と疾病予防に必要な看護について理解する。
- 3 成人期にある対象の健康障害のレベルや疾病の経過に対応した看護について理解する。
- 4 成人期にある対象を支援する保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。

# 成人看護学 科目構造



科目名	成人看護学概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	1年
担当者名	上田 麻衣子 (実務経験のある教育者)						
ねらい	成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解するとともに、成人期における健康障害のリスクと健康の保持増進に対する支援を理解する。						
回数	内 容					授業形態	
1～5回 (45分)	1 成人期の発達と役割 1) 成人各期の身体の変化 (発達・成熟と衰退) 2) 心理・社会的および生活状況からみた特徴 3) 性的自己の発達 4) 成人の役割					講義 GW	
6～8回	2 成人の学習の特徴と看護 1) 成人の学びの特徴 2) 成人教育理論 (1) アンドラゴジー (2) エンパワメント (3) 自己効力感					講義	
8～15回  (45分)	3 成人保健 1) 生活習慣と健康障害 (1)生活習慣病と健康障害の関連 (2)生活習慣病の予防と対応 (3)生活習慣病の予防とセルフケア 2) ストレスと健康障害 (1)ストレスの種類と生理的対応 ①ストレス理論 ②コーピング理論 (2)生活ストレスと健康障害 (3)ストレス関連疾患の予防と対応 3) 職業 (仕事) と健康障害 (1) 就労条件と健校医障害の関連 ①労働環境 ③雇用形態 (2)職業性疾患の予防と対応 4 成人保健対策 1) 地域保健対策 国民の健康づくりと健康増進法 2) 生活習慣病対策 3) 産業保健対策					講義 GW	
						試験	
評価方法及び観点	筆記試験 レポート GWへの参加姿勢					総合的に評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 (医学書院) 看護のための人間発達学 第5版 (医学書院) 公衆衛生が見える 第3版 (メディックメディア) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・グループワークには積極的な参加姿勢を望む。 ・課題レポート等は提出期限を厳守のうえ、表紙をつけて提出すること。						

科目名	成人看護学援助論Ⅰ（血液造血器疾患・脳神経系疾患患者の看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20時間)	対象 年次	2年
担当者名	本多 智子（実務経験のある授業科目：看護師） 森 真実（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて、診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容					授業形態	
<血液造血器> 1～5回 (45)	1 血液・造血器疾患患者の看護 1) 白血病（急性・慢性） 2) 悪性リンパ腫 3) 多発性骨髄腫					講義	
<脳神経系> 1～3回	1 脳・神経疾患（外科系）患者の看護 1) くも膜下出血 2) 脳腫瘍 3) 頭部外傷						
4～5回	2 脳・神経疾患（内科系）患者の看護 1) 脳梗塞 2) 脳出血 3) てんかん 4) ギランバレー症候群 5) パーキンソン病						
(45分)						試験	
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門 成人看護学④ 血液・造血器（医学書院） 系統看護学講座 専門 成人看護学⑦ 脳・神経（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学（医学書院） 生体のしくみ 標準テキスト（医学映像教育センター）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連科目：解剖生理学Ⅰ・疾病治療論Ⅰが基礎となり、看護の学習となる科目であるので、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。</li> <li>・解剖生理学テキスト「生体のしくみ」：「血液のしくみ」「神経系のしくみ1・2・3」を事前に視聴のうえ、授業に臨むこと。（※復習視聴）（なお何度視聴してもかまわない。）</li> <li>・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。</li> </ul>						

科目名	成人看護学援助論Ⅱ (呼吸機能並びに循環機能・感染による障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	2年
担当者名	葉山 まつえ (実務経験のある授業科目：看護師) 湯原 里美 (〃) 吉田 聖 (〃)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて、診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<呼吸器> 1～6回	1 呼吸器疾患患者の看護 1) 肺炎(細菌性肺炎・間質性肺炎・誤嚥性肺炎) 2) 気管支喘息 3) 肺がん 4) 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 5) 気胸						講義
<感染症> 1～3回 (45分)	2 感染症疾患患者の看護 1) ウイルスによる感染症(インフルエンザ・エボラ出血熱・ コロナウイルス感染症・ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症) 2) 細菌による感染症(結核・コレラ・梅毒) 3) 敗血症						
<循環器> 1～3回	2 循環器系疾患(内科系)患者の看護 1) 虚血性心疾患 ①狭心症 ②急性心筋梗塞 2) 急性冠症候群 3) 心不全 4) 不整脈 5) 血圧異常：高血圧						
4～6回	3 循環器系疾患(外科系)患者の看護 1) 心臓弁膜症 2) 大動脈解離 3) 閉塞症動脈硬化症						
(45分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門 成人看護学② 呼吸器(医学書院) 系統看護学講座 専門 成人看護学③ 循環器(医学書院) 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学① アルキ-膠原病・感染症(医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト(医学映像教育センター)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留 意事項	・関連科目：解剖生理学Ⅱ・疾病治療論Ⅱが基礎となり、看護の学習となる科目であるので、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。・解剖生理学テキスト「生体のしくみ」：「呼吸のしくみ」「循環のしくみ1・2」を事前に視聴のうえ、授業に臨むこと。(※復習視聴)(なお、何度視聴してもかまわない。)・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	成人看護学援助論Ⅲ (代謝・内分泌系, 免疫・アレルギー-機能に障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	2年
担当者名	坂巻 美樹 (実務経験のある授業科目: 看護師) 柴田 真奈美 (実務経験のある授業科目: 看護師)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて, 診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容					授業形態	
1～5回	1 代謝・内分泌代謝疾患患者の看護の実際 1) 視床下垂体機能: 尿崩症 2) 甲状腺疾患: 甲状腺機能亢進症 (バセドウ病) 甲状腺がん 3) 副甲状腺疾患 4) 副腎疾患: クッシング症候群・アルドステロン症 5) 糖尿病 6) 高脂血症 7) 痛風					講義	
<免疫系> 6～7回	2 アレルギー・膠原病疾患患者の看護 1) 関節リウマチ 2) シェーグレン症候群 3) 全身性エリテマトーデス (SLE)						
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー-膠原病・感染症 (医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト (医学映像教育センター)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・関連科目: 解剖生理学Ⅲ・疾病治療論Ⅲが基礎となり, 看護の学習となる科目であるので, 必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 ・映像以外: 「ホルモンのしくみ」を事前に視聴のうえ, 授業に臨むこと。(※復習視聴) (なお, 映像以外は, 何度視聴してもかまわない。) ・複数の講師が担当するので, 出席時間等は自己管理のうえ, 体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						



科目名	成人看護学援助論Ⅳ (運動器系・消化器系機能に障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2年
担当者名	田村 嘉章 (実務経験のある授業科目：看護師) 斉藤 修一 (実務経験のある授業科目：看護師) 佐藤 俊介 (実務経験のある授業科目：看護師) 野村 拓矢 (実務経験のある授業科目：看護師)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて、診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容						授業形態
<運動器> 1～5回	1 運動器疾患患者の看護 1) 大腿骨骨折 (頸部・骨幹部) 2) 脊髄損傷 3) 椎間板ヘルニア 4) 変形性脊椎症 5) 関節の変性疾患 (変形性股関節症・変形性膝関節症)						講義
<消化器> 1～3回 (45)	2 消化器系疾患 (主に外科系) 患者の看護 1) 食道がん 2) 胃がん 3) 大腸がん						
4・5回	3 消化器系疾患 (主に内科系) 患者の看護 1) 胃・十二指腸潰瘍 2) 潰瘍性大腸炎・クローン病 3) イレウス						
6～10回	4 肝・胆道系, 膵機能疾患患者の看護 1) 肝臓がん 2) 肝炎 (急性・慢性) 3) 肝硬変 4) 胆石症 5) 膵臓がん 6) 膵炎 (急性・慢性)						
(45分)							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑮ 歯科・口腔 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・関連科目：解剖生理学Ⅳ・疾病治療論Ⅳが基礎となり、看護の学習となる科目であるので、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。・映像以外：「身体運動のしくみ2」「消化吸収のしくみ1」を事前に視聴のうえ、授業に臨むこと。(※復習視聴) (なお、映像以外は何度視聴してもかまわない。)・複数の講師が担当するので、出席時間等は自己管理のうえ、体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	成人看護学援助論V (体液調節機能, 生殖機能, 感覚機能に障害のある対象の看護)						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2年
担当者名	小田部 美雪 (実務経験のある授業科目: 看護師) 小林 玲子 (実務経験のある授業科目: 看護師) 渡邊 恭子 (実務経験のある授業科目: 看護師) 柿崎 恵子 (実務経験のある授業科目: 看護師) 鈴木 孝枝 (実務経験のある授業科目: 看護師) 津田 裕美 (実務経験のある授業科目: 看護師) 飯ヶ谷 美恵 (実務経験のある授業科目: 看護師)						
ねらい	疾患の病態生理を踏まえて, 診断のためにおこなわれる検査や治療を受けながら生活する対象を支える看護を理解する。						
回数	内 容					授業形態	
<腎泌尿器> >1~4回	1 腎臓疾患患者の看護 1) 急性・慢性腎不全 (透析看護含) 2) ネフローゼ症候群 3) 炎症性疾患 (腎炎, 膀胱炎)					講義	
5~7回 (45分)	2 泌尿器疾患患者の看護 1) 尿路結石 2) 前立腺がん 3) 膀胱腫瘍 4) 精巣腫瘍						
<婦人科> 1~3回	3 性・生殖器疾患患者の看護 1) 卵巣がん 2) 子宮がん 3) 子宮筋腫 4) 性感染症						
4・5回	5) 乳がん						
<感覚器> 1回	4 感覚器疾患患者の看護 1) 眼科疾患患者の看護 緑内障 網膜剥離						
2回	2) 耳鼻咽喉科疾患患者の看護: 突発性難聴 メニエール病						
3回	3) 皮膚科疾患患者の看護 熱傷						
(45分)						試験	
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料(テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院) 生体のしくみ 標準テキスト (医学映像教育センター) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑬ 眼 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑫ 皮膚 (医学書院)						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						

履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・関連科目：解剖生理学Ⅴ・疾病治療論Ⅴが基礎となり，看護の学習となる科目であるので，必ず予習・復習をして授業に臨むこと。</li><li>・映像以外：「排泄のしくみ」を事前に視聴のうえ，授業に臨むこと。（※復習視聴）（なお，映像以外は，何度視聴してもかまわない。）</li><li>・複数の講師が担当するので，出席時間等は自己管理のうえ，体調を整え欠席しないように授業に臨むこと。</li></ul>
--------------	--